

86 テングチョウ

(*Libythea celtis*)

■ 分布の状況

国外では台湾、朝鮮、中国、ヒマラヤからヨーロッパ南部にかけて広く分布する。国内での分布は北海道では若干の記録があるだけで、本州、四国、九州、南西諸島では山地、平地に広く分布する。

県内のほぼ全域に分布し、いずれの地域でも個体数は多い。

■ 生態

【成虫の発生時期】

5月下旬～6月にかけて年1回発生するが、一部は第2回目も発生している可能性もある。

越冬した成虫は3月下旬頃からあらわれ、4月中旬には多数が見られるようになる。

第1回目の成虫は5月下旬頃から発生し、6月上旬がピークとなり夏から秋にかけては少数が見られる程度でそのまま越冬するが、10月上旬頃に一時姿を見せる。

【第2回目の成虫発生の記録】

【成虫の多発】

テングチョウは年によって多発し、驚かされること

がある。

諏訪山公園での山口福男氏の観察では、1985年、1991年に飛来数が多かった。

1995年6月24日、相生市三濃山登山道の入り口の駐車場で、建物の壁面約10㎡が黒く見えるほどビッシリと成虫が張り付いているのを観察した。

芦屋市における西氏の観察では、2000年6月4日芦屋市高座川三条第2堰堤付近で1000頭以上と思われる群が吸水しており、450頭以上が一度に撮影された。

【食餌植物】

県内で確認された食餌植物はニレ科エノキだけであるが当然エゾエノキも利用しているものと思われる。

【成虫の吸蜜植物】

県内で観察された吸蜜植物は次のとおりである。
 (ツツジ科)アセビ, (バラ科)ヤマザクラ, (ユキノシタ科)ウツギ, (キク科)セイタカアワダチソウ, ノースポール, マリーゴールド, ヨメナ, (サクラソウ科)プリムラ・マラコイデス, (タデ科)ソバ
 その他鳥獣糞の吸汁が確認されている。

【その他】

幼虫には緑色と腹部の下半分が黒色の2型がある。寄生蜂の報告としては、宝塚市武田尾産で2000年6月17日にヒメキアシヒラタヒメバチの羽化例がある。

テングチョウの周年経過

発生個体数

